

● 最近の県内経済

基調判断

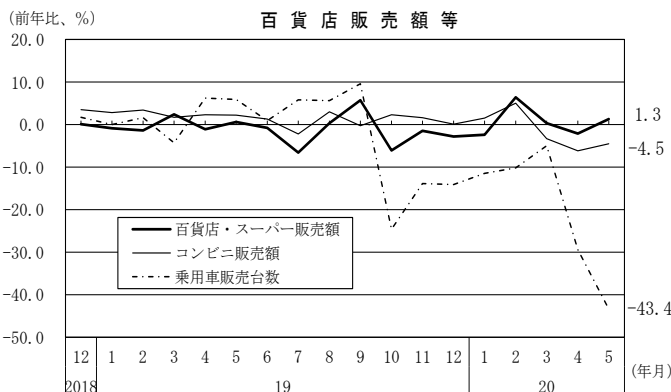
(2020年5月を中心として)



今月の概要

県内景気は、新型コロナウイルス感染拡大による経済への影響から大幅に悪化しており、厳しい状況にある。

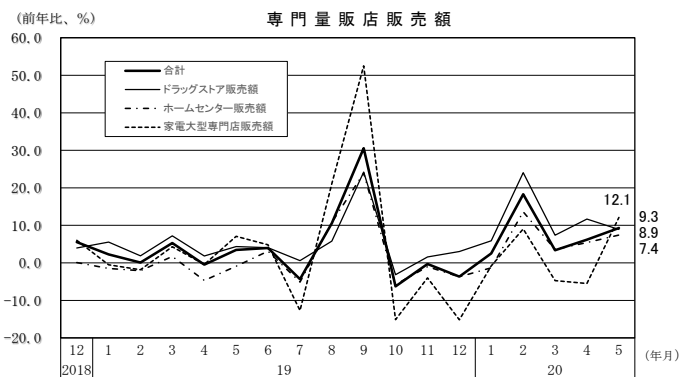
1 個人消費 低水準でやや持ち直し



(資料) 経済産業省、埼玉県自動車販売協会など

5月の百貨店・スーパー販売額(店舗調整前)は、1,051億円で前年比1.3%増となった。百貨店が同66.8%減と前月に引き続き大幅な減少となった一方、スーパーは同12.9%増となった。一方、コンビニ販売は514億円で同4.5%減となった。

乗用車販売は、同43.4%減と8か月連続の減少となった。内訳をみると、普通車(同44.3%減)、小型車(同28.9%減)、軽乗用車(同54.0%減)とともに大幅に減少した。



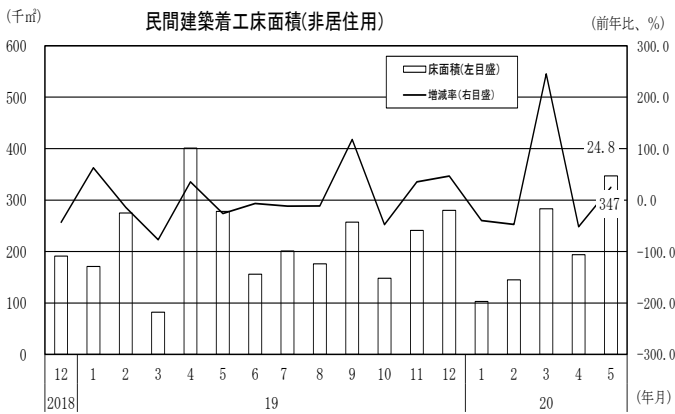
(資料) 経済産業省

5月の専門量販店販売額は、765億円で前年比9.3%増となった。内訳をみると、家電大型専門店が187億円で同12.1%増、ドラッグストアが382億円で同8.9%増、ホームセンターが196億円で同7.4%増となった。

個人消費は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う巣ごもりやテレワーク関連需要増を受け、一部衛生・生活用品(食品、家電)の売上が足元増加したものの、消費全体としては2月以降落ち込んでいる。

関東の消費者態度指数(原数値)は、4月<21.2>、5月<23.9>、6月<28.0>と低迷している。

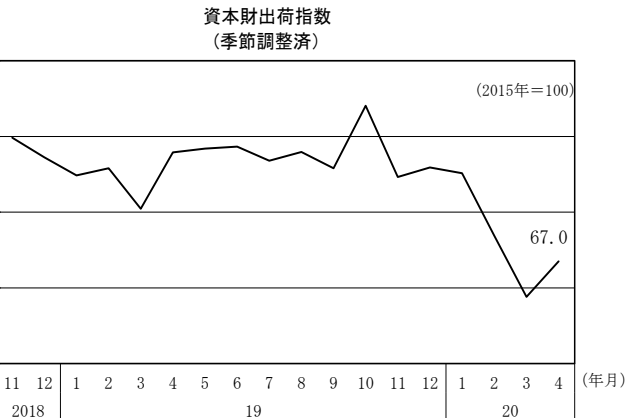
2 設備投資 減少



(資料)国土交通省

5月の民間建築着工床面積（非居住用）は347千㎡で、前年比24.8%増となった（年初来累計では同11.2%減少）。

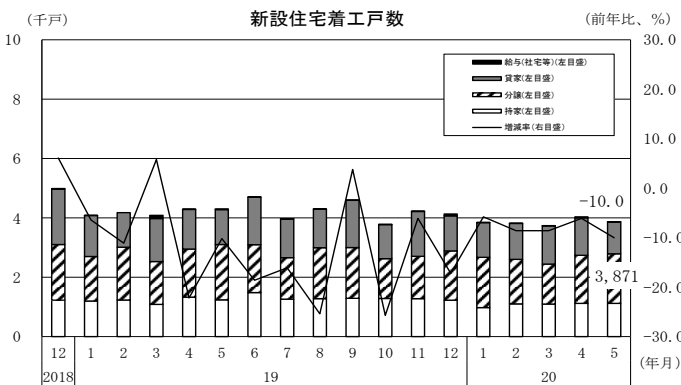
用途別にみると、工場及び作業場、倉庫が増加した一方、事務所、店舗、病院・診療所はいずれも減少した。



(資料)埼玉県

4月の資本財出荷指数（季節調整済）は、67.0で前月比16.3%の増加となった（4か月ぶりの増加）。

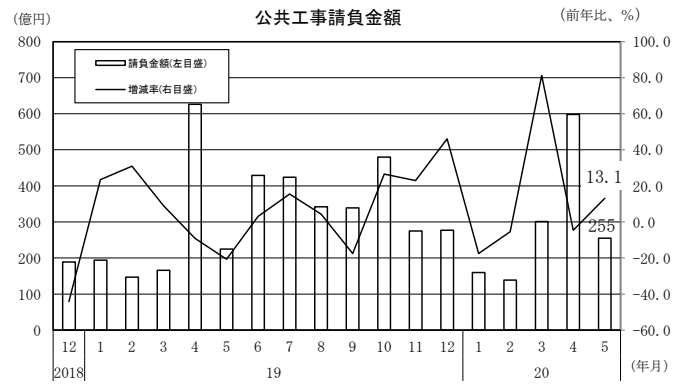
3 住宅建設 減少



(資料)国土交通省

5月の新設住宅着工戸数は、3,871戸で前年比10.1%減と8か月連続の減少となった。利用関係別にみると、分譲戸建て（1,201戸）が同2.9%増となった一方、持家（1,120戸）が同9.8%減、貸家（1,074戸）が同8.5%減、分譲マンション（471戸）が同32.4%減となった。

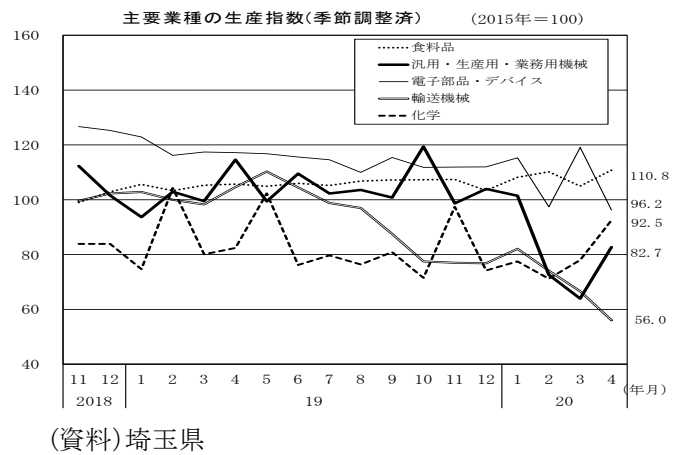
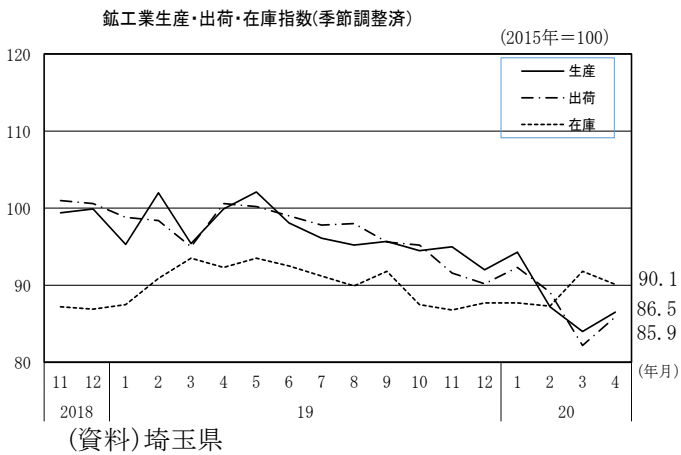
4 公共工事 増加基調



(資料)東日本建設業保証株式会社

5月の公共工事請負額は、255億円で前年比13.1%増となった（5か月後方移動平均でみると前年比7.0%増）。発注者別でみると、国、都道府県が減少した一方、独立行政法人等、市区町村が増加した。

5 生産活動 大幅に低下



4月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、86.5で前月比3.0%増加(3か月ぶりの増加)。前年同月比では、12.5%の減少(14か月連続の減少)。輸送機械(乗用車、自動車エンジン)、情報通信機械(カーオーディオ、カーナビゲーション)、電子部品・デバイス(混成集積回路、スイッチング電源)などが低下したが、生産用機械(フラットパネル・ディスプレイ製造装置、食料品加工機械)、化学(医薬品、化粧品)、食料品(炭酸飲料、めん類)などが上昇した。

出荷指数(同)は、85.9で同4.5%上昇した(3か月ぶりの上昇)。輸送機械(自動車エンジン、輸送機械用エアコン)、電気機械(電気計器、電力変換装置)、電子部品・デバイス(混成集積回路、サーミスタ)などが低下したが、化学(医薬品、化粧品)、生産用機械(フラットパネル・ディスプレイ製造装置、食料品加工機械)、食料品(炭酸飲料、チョコレート)などが上昇した。

在庫指数(同)は、90.1で同1.9%低下した(2か月ぶりの低下)。電子部品・デバイス(光電変換素子、トランジスタ)、化学(印刷インキ、シンナー)、生産用機械(整地機械、研削盤)などが上昇したが、輸送機械(普通トラック、乗用車)、電気機械(クッキングヒーター、HIDランプ)などが低下した。

◆ 食料品の生産指数(季節調整済)は、110.8で前月比5.5%上昇し、2か月ぶりの上昇となった。

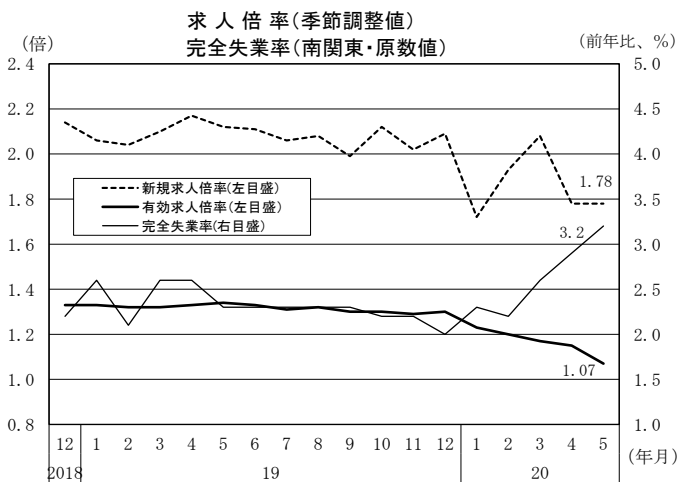
◆ 汎用・生産用・業務用機械(同)は、82.7で同29.3%上昇し、4か月ぶりの上昇となった。

◆ 電子部品・デバイス(同)は96.2で同19.2%低下し、2か月ぶりの低下となった。

◆ 輸送機械(同)は、56.0で同15.9%低下し、3か月連続の低下となった。

◆ 化学(同)は、92.5で同18.6%上昇、2か月連続の上昇となった。

6 雇用情勢 悪化している

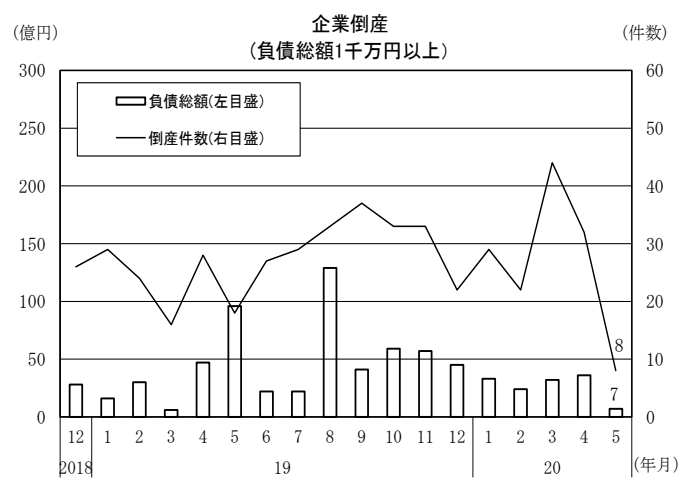


(資料)厚生労働省、総務省

5月の新規求人倍率(季節調整済)は、前月と変わらず1.78倍で推移した。一方、有効求人倍率(同)は、1.07倍で同0.08ポイント低下した(5か月連続の低下)。

完全失業率は(南関東、原数値)は、3.2%で前年同月比0.9%上昇した。

7 企業倒産 増加基調



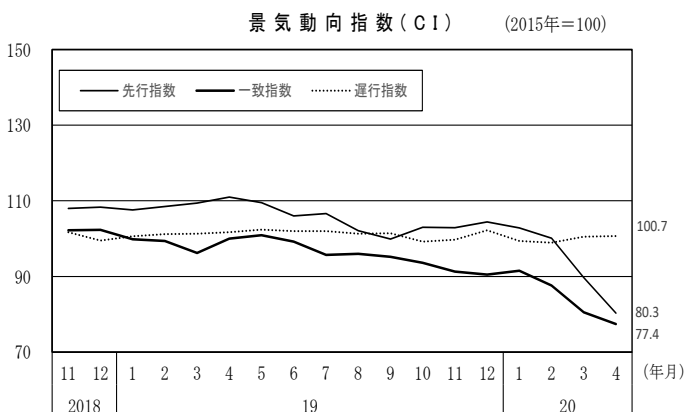
(資料)帝国データバンク

5月の企業倒産件数は、緊急事態宣言の発令に伴い裁判所や弁護士事務所の業務縮小による法的整理手続きが滞留したことも影響し、8件で前年比10件の減少、負債総額は7億円で同89億円の減少となった(5か月後方移動平均で見ると、件数は前年比17.4%増、金額は同32.3%減)。

業種別にみると、卸売業、小売業、運輸・通信業がそれぞれ2件となり、建設業とサービス業がそれぞれ1件となっている。主因別では、販売不振が7件となっている。

〈参考〉

景気動向指数(CI) 悪化を示している



(資料)埼玉県

4月のCI一致指数(景気の現状を示す)は、77.4で前月比3.1ポイント低下し、3か月連続の低下となった。

CI先行指数(景気の数か月先を示す)は、80.3で同9.4ポイント低下し、4か月連続の低下となった。

CI遅行指数(景気に遅れて反応する)は、100.7で同0.2ポイント上昇、2か月連続の上昇となった。